

大阪・関西万博開催記念 特別展

「日本、美のるつばー異文化交流の軌跡」京都国立博物館

さんさんヒストリアツアー参加者お申し込みの19名の皆さんに、最終のご案内を申し上げます。

● 旅程 5月21日（水）京都国立博物館 入場券売り場 13時20分集合

***なお、さんさん会ホームページ上の「集合 8:20JR 芦屋駅改札口」は間違いです。**

京都国立博物館への交通手段は、各自にお任せします。現地にて、お待ちします。

また、大体の観覧予定の目安として13:30～15:30

● 前売り観覧券 1,800円 15名の方 当日現地にて集金いたします。

参加者 （敬称略）

安居院、小林猛、塩路弘子、榎本、松山、光長、山口克彦、北島、小林小貴恵

塩路伸世、能木場、林、原田、山本、吉田

以上15名 前売り観覧券用意

岡田、辻井、天王寺谷、山崎

以上4名 観覧券持参

「世界に見られた日本美術」

明治の日本が国際社会に乗り出した頃、西洋の美術市場には、江戸時代以前から輸出されていた伊万里焼や輸出漆器に加え、廃刀令や洋装のために無用となった刀装具、印籠、根付、そして浮世絵などがあふれ、日本美術のイメージを作り上げていました。芸術の都パリでは、蒐集家や美術評論家のあいだでちょっとした日本ブームが起き、北斎（1760～1849）や光琳（1658～1716）が注目されました。

当時、欧米各地で次々に開催された万国博覧会には、工芸品や工業製品などを主に見せる工芸館と、西洋の芸術観にもとづく絵画や彫刻を展示する美術館とがありました。明治政府は、手探りながら、欧米で売れる品をみつくり殖産興業を図りつつ、西洋の美術観に即した鑑賞用の作品の制作も奨励して万国博覧会へ出品し、国威発揚に努めました。

明治政府は、国外に向けた日本らしさの強調に尽力しましたが、実際に日本に遺された品々の多くは異文化の要素を豊かに示し、海外との活発な交流を物語ります。

今回は、まさに「日本、美のるつばー異文化交流の軌跡」をご覧ください。

*注 事前に、さんさん会ホームページ 同好会「さんさんヒストリア」「京都国立博物館」をご覧ください。当日の出品作品の簡単な説明と作品写真が掲載されています。ご参考にしてください。

さんさんヒストリア リーダー 小林 猛